

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
総合企画部	式典や行事の企画・運営の円滑化	実施要項・内容の検討	・各種式典・学校行事での職員の役割分担と業務内容を明確にする ・オープンスクールについては、参加者に一層わかりやすい内容にする	・全職員の意思統一、協力を得ながら各行事が滞りなく運営できるようにする ・オープンスクールは年2回開催し、宇陀高校ならびに新設学科の説明について重点を置く	・コロナ禍で本校最大の特徴ある地域社会との協働活動や学校行事がほぼなくなった ・オープンスクールを2回実施、参加者は昨年より減少したが概ね好評であった	B	・あらゆるケースを想定して行事に臨機応変に対応できるように、準備しておく ・専攻科も含め、参加者を増やすための広報活動を充実させる	宇陀高校開校に向けてどのように広報活動を行ったか。 宇陀高校や専攻科のリーフレットを作成し、管理職や担当者が各中学校を回った。また、要請のあった中学校で学校説明会を実施し、宇陀高校のPRを行った。夏以降は、e-オープンスクールや本校でのオープンスクールを実施し、広報に努めた。今後は、宇陀高校のホームページの充実に努めるとともに、地元の広報誌や、メディア等も積極的に活用していく。
	広報活動の充実と各種団体運営の活性化	広報資料・方策の工夫	・学校Webページを充実させ、より迅速・正確な情報発信を行い、閲覧回数が増えるように頻繁に更新する ・地域社会・中学校からの適正な評価を得るための広報を充実する	・広報すべき内容を精選し、更新を年間12回以上行う ・マスコミへの情報提供と取材依頼につとめるとともに、中学校・地域社会への資料提供を5回以上行う	・学校紹介やオープンスクールの案内等は、頻繁に更新し、情報発信につとめたが、部活動の更新が少なかった ・宇陀高校開校にあたり、リーフレットを作成、学校紹介資料の最新版とともに県内中学校等へ配付した	B B	・各クラブ顧問にWebページ更新依頼を粘り強くしていく ・校内での活動やユニークな授業内容、ガイダンス等々、自己評価・再評価する視点を共有していきたい	
		育友会・同窓会・模生会の事務局及び創立百周年記念事業実行委員会の運営の円滑化	・各団体と良好な関係を保ち、誠実な事務局運営に努め、多くの賛同をいただける環境を整える ・周年行事に向けて、具体的な方策を構築する	・各団体と良好な関係を保ち、学校理解・支援のネットワークを作る ・百周年記念事業については、各委員会の業務を計画的に遂行する	・育友会報「はしばみ」は会長がリーダーシップを発揮され、新しい紙面作りができた。総会や役員会の開催回数は例年より減少したが、可能なかぎり連絡調整につとめた ・百周年の各委員会を頻繁に開催、業務がよく検討されて進められている	A	・育友会役員の方々にも意識して活動していただける工夫が必要 ・創立百周年事業の職員の役割分担について、記念誌編纂以外の委員会を具体的に組織する	
教務部	宇陀高校の開設を意識し、基礎的な知識・技能の習得、定着及び着実な学力の向上をめざす	教育課程の実践と改訂	・現教育課程を有効に実践すると共に、必要に応じて改訂する ・宇陀高校の教育課程についても、検討を重ねる	・「わかった」と実感できる生徒の割合80%以上をめざす(アンケートの活用)	・年度末での欠点保持者数が、昨年度よりも更に減った ・宇陀高校の新教育課程作成を完成させた	A	・シラバスの完成度向上と新指導要領に即した観点別評価・指導の質を向上させる	宇陀高校開校に向けてどのような取組を行ったか。 大宇陀高校と協力し、宇陀高校WGで検討を重ねながら、新しい教育課程や教務内規を完成させた。引き続き、教務内規及び校内規定の充実に努める。
		宇陀高校校内規定の作成	・教務内規については、履修と修得を分ける ・他校等の資料収集・調査研究をさらに進める	・校内規定を策定する	・大宇陀高校教務部と協力して教務内規を完成させ、WGに提案した	A	・引き続き教務内規の充実に努める	
		基礎学力の充実	・昨年に引き続き「学び直し」や「授業の工夫」、「ICT機器の有効活用」、「在宅教育の進め方の研究・実践」によって、一人一人の生徒の力を最大限に伸ばす取組を、全校体制で進める ・授業を中核にし、小テストや課題なども活用して、生活及び学習サイクルの定着をめざす	・各教科で工夫した取組を全体で共有できるようにする(授業公開の活用) ・ICTの有効な利用について研究し、実践する	・授業交流の期間設定(授業交流週間や授業交流月間)等が出来なかった。 ・コロナ対策のためもあって、cassroomやmeetの活用が出来た。ただ、個人的な研修に終始してしまった	B A	・引き続き、指導力向上のために研修会を実施したり、教員間の研修成果を共有できる場を設定していきたい	コロナ禍における学習指導をどのように行ったか。 新年度早々の時差登校に始まり、2学期は開始時期が延期され、分散登校が始まったのを契機に本格的なオンライン学習が始まった。教員同士、研修を重ね、その成果を共有しながら指導力向上に努めた。
		学習支援の充実	・学習支援・特別支援を必要とする生徒に対し、学習支援員とともに丁寧に対応する	・「わかった」と実感できる生徒の割合が80%以上となるよう努める(アンケートの活用)	・支援員、担任、教科担当者が協力して、支援の必要な生徒に対し丁寧な指導に努めた ・年度末での欠点保持者数が、昨年度よりも更に減った	A	・引き続き教員が連携して、丁寧な指導を続けていく	
進路指導部	未来の展望をもち、確かな自己を大切にしながら社会に貢献できる人物の育成を図る	自己分析と成長	・自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、社会に貢献しながら生きる生徒を育成する ・SSシート・キャリアパスポート・進路講演会や学年集会・個人面談などを通して、自己を知る機会を提供する	・毎学期、学年進路集会を1回実施すると共に、講演会や講座なども1回開催する ・SSシート・キャリアパスポートに具体的に目標を記入させ振り返らせる	・1年生のキャリア見学会は中止となったが、進路ガイダンスを実施した ・3年生の1学期の面接講座は、形を変えて実施できた。臨機応変な対応をすることが重要である ・新規にキャリアパスポートを全学年導入し、SSシートからの振り返りと目標設定につなげた ・生徒が自ら考える習慣の育成が課題である	A	・自己の生き方を見つめるために、社会を知る進路行事や情報提供を進めていく。そのためにSSシートやキャリアパスポートを活用し、日々の目標設定から行動につなげ、進路行事に意欲的に取り組めるようにする	コロナ禍における進路指導をどのように進めたのか。 コロナ禍ではあったが、臨機応変に対応し、進路ガイダンスや面接講座を実施することができた。今年度は、SSシートの活用とともに、新たにキャリアパスポートを導入し、目標設定につなげる取組を行った。
		基礎学力の確立、向上と基本的マナーの養成	・四則計算や割合、漢字の読み書きなど義務教育範囲の基礎学力を確立する ・生徒指導部と連携をとり、服装、挨拶、敬語など社会人としての常識や基本的なマナーを身に付けさせる	・OneWeekトライアルを授業中に展開し(調査範囲に含めることで、学習意欲を高め基礎学力の確立を図る) ・服装、敬語などは授業や講座以外の場面でも指導していく	・OneWeekトライアルの活用は十分ではなかったが、基礎力診断テストを通じて生徒は自分の力を客観的に判断することが出来た ・基本的なマナーについては、学校生活の中での意識はもてるんのこと、3年生では面接講座に参加することにより理解から実践につながった	B B	・基礎力診断テストの振り返りの時間を充実させる ・3年生1学期の面接講座を充実させ、就職生徒は夏以降の、進学生徒は秋以降の受験に自信をもって臨めるようにする	
		各種検定試験、模擬テスト受験の推進	・漢字、英語検定の受験を軸に看護模試や進路に合わせた模試の受験を推奨し、意識の向上と学力の定着を図る ・学習に対する動機付けや自己肯定感の育成をはかる	・漢字検定及び英語検定の3級以上合格者を40人以上とする ・看護模試や各種検定の延べ受験者数を150人以上とする	・漢字検定3級以上に32名合格した ・進研・看護・公務員の各模試を延べ19名受験、英語検定9名、漢字検定133名受験した	B B	・各検定の目標設定をキャリアパスポートやSSシートに記入させ目標達成に向けて計画性を持たせる ・進路に向けて模試を活用する大切さを周知する	
		各種セミナー参加の奨励	・自己を磨き自己実現を図る機会として進路行事への参加を奨励し、職業観の育成及び自己を知り手立てとする ・看護セミナーや体験談を聞く機会を設け、体験しながら自己実現を図る	・各種セミナーを年3回以上実施する	・1年生では職業人講話を実施した。全体では看護師セミナー・看護面接講座を3回、公務員説明会、就職説明会等を実施した ・教育研究所主催のインターンシップには、夏期5名、冬期2名が参加した ・コロナ禍ではあるが参加人数の増加が課題である	A	・総合学習では、学年全体として必要な内容を盛り込み、放課後のセミナーでは、生徒個々のニーズに合った企画を考えていく ・参加生徒を増やすためにも自ら考え調べるための情報提供を進める	